# 学校教育評価表（小・中学校）

学校名　大津市立　唐崎中学校

5段基準（3：よくできた　2：できた　1：あまりできなかった　0：まったくできなかった）

| 項目 | | 評価の観点 | 自己評価（3～0：その理由） | 自己評価に関する説明 | 評価者共通の評価 | 学校関係者からのコメント |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 主体的・対話的で深い学び | 1 | 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践 | 3 | 落ち着いた授業環境で意欲的に学習に取り組む姿が見られた。教師は、解答が間違っていても、大きな問題はなく、難しくて諦めずに取り組む姿勢が大切であることを指導しながら、関連いを受け入れ、良いところは認め合う集団づくりに努めている。また、ペア学習やA.Tの学び合い、班活動を通して、主体的・対話的で深い学びにつなげている。加えて、行事の取り組みにおいても、教手と共に、意見のとっこを共有し、得意な生徒でカバーするなど、自分の得意をいかして主体的に取り組む姿がみられた。<br>教職員は、生徒たちの主体的・対話的で深い学びを追究するために、校内研究で参観授業を実施し、指導方法の工夫・改善を日々積み重ねている。授業では教師がめあてを示すことで、生徒が授業後に学習内容を振り返り、主体的に学べるように、また、生徒の学習活動が「教え合う」から「学び合う」活動へ質的に深化させることを課題に引き続き、研究や研修会を進めていきたい。 | 3 | ・コミュニケーション能力を育成を図ることは、今後の人生においてもも重要なことだと思います。主体的に活き活きと活動する生徒が増えていくことを期待しています。<br>・生徒たちが互いに良いところ良いところを認め合い、協力あって学習する姿がよく感じられて高く評価しました。<br>・協力表会議の前の参観でも、生徒が落ち着いて先生の話に耳を傾けている様子がうかがえた。関連ごとを恐れない、お互いを受け入れて個々の得意なことを活かした指導は、観察力と視覚がいる指導だと思う。<br>・3年総平室で、生徒の実践（説明時、10）から、落ち着いた環境で意欲的に学習に取り組めている。学び合い学習が単なるグループ学習や教え合いにならないよう日々の授業交流や授業改善を求める。<br>・何度か学習している生徒の姿を参観する機会を設けていただきありがとうございます。これも開かれた学校づくりを目指す学校の姿勢の一つであると受け止めています。<br>・様々な場面でアイパッドを使用していて、興味の深度につながっていると思いました。<br>・先生方の日々の努力がアンケートの結果に現れており、生徒たちが自ら考え、仲間と対話しながら学びを深める授業づくりが進んでいると感じられます。関連いを受け入れ、よいところは認め合う学習環境が整っているのがすばらしい。<br>・学校アンケート集計の設問6において落ち着いて学習に取り組めていない生徒が25%も存在している。当てはまるとの回答も、ほかの項目に比べても若干少ない状況であり、深い学びを行っていくための基本的事項を整えてほしいと考える。 |
| | 2 | 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む） | 3 | | | |
| | 3 | 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会 | 3 | | | |
| 道徳教育の充実 | 4 | 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施 | 3 | いじめ防止に関する取り組みについて、道徳科の授業に加えて、生徒会活動や普段の生徒との関わり等で活発に行っていることもあり、評価の観点4の自己評価が出なかった。また、いじめ防止に関する道徳科の授業公開を行ったため、評価の観点6も自己評価が高く出た。<br>一方で、評価の観点5について、「特別の教科 道徳」となってから時間が経過し、既存の教材を活用することが増え、新たな教材の開発に取り組むことが少なくなったことや、それに伴って既存の教材に慣れきがちな傾向が減ってしまったため、自己評価が低く出た。今後は、ローテーション道徳に取り組む中で、教員の教材理解を深めたり、互いの授業を参観し合って技術を磨き合うなど、授業の質の向上を視点とし、、試行錯誤しながら授業開発に取り組んでいきたい。 | 3 | ・中学生は人格形成の観点から道徳の授業はとても重要だと思います。また、保護者への道徳科の公開授業も継続お出願します。<br>・観点4については、観点1～3に関わってくることもあり互いを認め合ってもこたから、いじめを許さない態度に繋がり、良い雰囲気の学校になっていると感じる。<br>・授業公開に保護者は計れくらい参加しているかわかりませんが、道徳を共有できて深く考えられる学びの時間ができることが大切だと思います。<br>・伝統、ローテーション道徳がいっていないような先生方の技技術がさてもらい生徒がより先生を知り、信頼感が増す活動をされていたが、その活動はありますが、教えることが目的ではなく、その授業の成果としての生徒の変容が知りたい。<br>・保護者向けの道徳の授業参観を全校為けて実施していることは、道徳に対しての学校の姿勢を発信することつながり、また、保護者にも内容やその考え方の理解を深めるため、これから先も継続されることを期待します。<br>・道徳の考え方を、特別活動や生徒への関わり等で反映されることも重要のあることと思われます。<br>・先輩のアンケートから、学校生活に満足し、安心・相談できる大人がいると感じている生徒が多くことが読み取れました。日常的な生徒理解と丁寧な関わり、また、「道徳」の授業において、既存教材だけに頼らず、時代にかりった題材の生徒の実態に適した方向を模索され、取り入れたことがよく伝わります。<br>・生徒会活動の進んで参加している姿は非常に比べても低下しており、50%を切っている。因果関係があるかないかわからないが、いじめの防止に関する取り組みについての生徒会活動の評価が充分であるかどうかは検討の余地があると考える。 | 3 |
| | 5 | 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流 | 2 | | | |
| | 6 | 保護者等への道徳科の授業公開 | 3 | | | |
| 体力づくり | 7 | たくましいと仲を育てる魅力ある授業の工夫改善 | 2 | 学校全体としての取り組みで教科横断的な体力向上の取り組みの実施は難しく、評価の観点7と8の自己評価は昨年と同様だったも、しかし、今年度は、評価の観点9の自己評価がさになった。その要因としては、朝ストレッチの継続的な実施や課題を回いて江州音頭を全校生徒が行うなど、委員会や保健体育授業で体を動かす実時ちとを体験する機会を増やすことができたことが挙げられる。<br>・また、便便から感染症対策や熱中症対策等の情報発信があり、生徒や保護者へ発信にすることするための情報を共有することができた。加えて、地域の子ども食堂やランティアに参加する生徒もおり、地域と関わりながらも身の健康について考え、生徒自ボランティアとして支えるという機会も増えている。 | 2 | ・体力向上の取り組みは、やはり感染症や熱中症の懸念がある昨年の状況以降の問題であり、これといった打開策がなかなか見つからないが、江州音頭のように学校協力団体の方でもより検討していく必要があるようにに思う。<br>・体力向上について、日頃の中で今校生徒が自発的に体つことも大切で、取り組みとして評価できる。<br>・生徒の体力の低下が懸念されます。保護者の見通し、教育現場の見通し、教育効果の見通し等が必要かと思います。<br>・江州音頭を体育の授業で取り入れられたのはとても良かったと思う。また今後も、子ども食堂を通してボランティアに興味を持ってもらえる工夫を。<br>・体力づくりについて、朝ストレッチ継続的な実施が示れる等、すばらしい。地域とかかわりながら特筆だけでは難しいところを、地域としてあ手伝いできればなと考える。<br>・朝ストレッチ、江州音頭を校生徒で行うわ、体を動かす気持ちとが体験できたことは喜ばしいと、また、子ども食堂やランティアに参加して地域とかかわりながら心身の健康について考える機会が今後も増えていくように願います。<br>・学校全体で体力づくりに特化した取り組みを展開するのは、現実的に難しく、やはり体育の教科の中で取り組むことが妥当と思われる。その中でも朝ストレッチを取り入れたりと工夫された取り組みがなされていることは評価されるものと思います。<br>・江州音頭のご協力ありがとうございました。今後も生徒の皆さんと協力し開催していきたいと思います。 |
| | 8 | 体力づくりを推進する運動実践 | 2 | | | |
| | 9 | 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成 | 3 | | | |
| 指導改善（組織的・計画的） | 10 | 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善 | 3 | 学力向上を目指した指導体制は、今年度2年目を迎えた滋賀県教育委員会の研究指定事業「GIGIデータを活用した「個別最適な学び」調査研究事業」を軸として取り組んでいる。生徒の学力向上に資するデータの分析に関する研修や、丁寧に生徒一のフィードバックなどを実施に、授業をより工夫することができた。ただ、学力向上が偏差ちと強調に表れない生徒もおり、モラルと生徒に対しての必要があると思う。「学び支援コーディネーター」の活用方法や、教職員研究会等に参加し、外部講師をアドバイザーとして招聘することで、教職員相互の授業改善に関することができている。特に、校内授業研究会では、日の前の生徒の学ぶ姿から授業改善を考える自分ごと化を図ることができた。<br>教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上<br>教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上については、職員会議で特別研修の時間を設け、教職員の指導力や組織的な教育力の向上に資することができた。<br>働き方改革の取組と教育活動の質の改善については、教育課程や行事の見直し等を行い、教育活動の精選を図りながら、時間短縮効果最も考慮しながら学校の教育活動を組織的・計画的に進めることができた。今年度は、保護システムや教材作成支援ソフトの導入により校務時に教職員の残業時間軽減が進められている現状があり、その点に関しては、働き方改革がこれまでは上に乗し進められた感がある。今後は、「働きやすさ」が「働きがい」のバランスを考慮しながら、生徒も教職も生き生きと学び、はたらくことができる学校づくりを進めていきたい。 | 3 | ・働き方改革の中　指導力の向上　指導方法の改善に取り組むことは大変なご苦労と思います。働き方改革も残業時間縮減が才見　一歩前進したように思います。教職員が心身ともに健康であることが一番大切です。引き続き改革の推進をお願いいたします。<br>・教員の組織的な教育力向上により、授業改善がなされていることが評価されています。教員個々人の休力意欲が組織的な取り組みとともに充実できるよう地域としても できることがあれば協力したい。<br>・保護システム導入により教職員の残業時間縮減が進められているという一手段の充実。生徒に対して取り扱て深に支援していくプラ面の充実。パワスのとれた教育活動を望みます。<br>・働き方改革が始まって数年がたち、慣れてきた事も多い効率よく教育活動が出来ていることが実感されると思われる。組織としての活動が期待しています。<br>・各年代の学校間の教育活動を通じて、人格形成されていくので、本時に目的のもって学ぶ目的が重要であると思われる。組織としての活動が期待しています。<br>・忙しいやても生徒たちに工夫を重ねてくださっていることが伝わっています。先生方が充実でいられると自体が生徒たちにとって安心につながると思うので、先生方の休とのも大切にして取り組んでいただきたい。<br>・多忙化する中、働き方改革の実践を図られながら、生徒データの設問10、11、15の肯定的な回答も高いので、評価する。 | 3 |
| | 11 | 防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり | 3 | | | |
| | 12 | 働き方改革の取組と教育活動の質の改善 | 3 | | | |

育ちと学びを支える 連携

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 家庭・地域との連携・協働 | 13 | 保護者の子育てに対する積極的な支援 | 3 | 1、2学期の終わりに全校生徒に三者懇談を実施した。問題を抱えている生徒については、関係機関と関ぎながら家庭と連携を取り、保護者の悩みに寄り添う姿勢で対応した。また、日々の教育活動や学校の様子については、毎月の学級通信や学年通信を保護者に直接配信できる保護者用連絡アプリ「tetoru」を使い、継続して発信した。日頃の家庭連絡や欠席連絡においても「tetoru」を使い、次の日の時間割や持ち物などを発信しているが、「tetoru」に関りすぎることによって、保護者と直接会話する機会が少なくなる傾向にあることが課題である。<br>今年度は、ボランティア活動に参加する生徒の人数が多く、清掃まつり、盆踊り、花火大会、子ども食堂、愛のパトロールなどで、中学生と地域の方々や学生との交流の場がたくさん あった。特年、地域の協力のもと冬子育 学習会や赤い羽根共同募金活動を行っている。さらに、地域学校協働活動推進員には地域の人材をキャリア教育講演会の講師として紹介していただいた。今年度の学校多・スクリプロジェクトでは、昨年に引き続き、学校の周りに地物で作ったランプシェードを設置することを目標に活動に取り組み、地域の反応工事より設置に関する技術を指導いただきながら、子どもたちの手で設置を行うことができた。<br>防災教育については、学期ごとの避難訓練を行っている。今年度は、数年ぶりに、不審者対応訓練を行い、教室の机でバリケードを作り、張り詰めた緊張感のなかで実施することができた。また、多・スクリプロジェクトで設置したランプシェードにより、明い雰囲気、ほんのりと明るく感じることができた。 | 3 | ・家庭環境も複雑化、多様化していて対応も大変だと思います。引き続き保護者に寄り添った対応の継続をお願いいたします。<br>・今年度は多くの中学生が自主的にボランティア活動に参加してれた事がとても素晴らし感じました。また参加後はすごく楽しかったという言葉があったのが嬉しく思い、みんなと一緒に出来た事が良かったです。<br>・地域とのかかわりが学校全体で取り組んでおられることがよくうかがい、今後も進んで地域との交流を深めて地域全体で生徒さんを育てていく方向で努力してください。<br>・今後もボランティア活動に多くの生徒が参加してもらえるよう、学校内の各団体で考えていきたいと思います。<br>・不審者対応訓練もこれて重要だと思います。定期的な実施をお願いします。<br>・防災教育について、地域では防災訓練にも参加、意識を持てるよう に臨みます。<br>・生徒の皆さんが地域で活躍する機会が増えた感じています！<br>・ボランティア活動に参加する生徒の人数が多く、地域の方や小学生との交流の場がたくさんあったが、保護者のアンケート（設問19）によると、保護者にはあまり伝わっていないのは残念である。生徒の意欲的なボランティア活動をもっと広く発信して欲しい。<br>・学校の教育活動ボ「tetoru」等で発信して、地域に関かれた学校づくりに学校全体で取り組んでいるより印象を受け、好感が持てる。地域の行事や共同募金の実績活動、子ども食堂などのボランティア活動に生徒さんが多く参加している姿が見られて、たいへん好ましく思われる。<br>・夢・スクリプロジェクトの「ランプシェード」の作成にも、生徒たちの「より良い学校にしていきたい」「地域の役に立ちたい」という思いが伝わってくるようで、好ましく思われる。<br>・中学生が地域にいて活動はとても大切だと思います。要請に応じて行くではなく、生徒自身がこんなことをやってみたい！地域のために関わりたいと自分から言えるような環境づくりを、学校と地域で一緒に考えていけたらうれしいです。<br>・丁寧に生徒の様子を観察し、適切に指導している。保護者とのコミュニケーションも積極的に行われている。また地域行事においても、生徒や先生の活躍もよく見られる。 | 3 |
| | 14 | 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用 | 3 | | | |
| | 15 | 防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり | 3 | | | |
| ② 保幼小中の連携 | 16 | 子どもの校種間交流や教員の出前授業 | 3 | 校種間交流については、1学期に部活動を校種間設定した。今年度は、数年ぶりに、不審者対応訓練を行い、教室の机でバリケードを作り、張り詰めた緊張感のなかで実施することができた。また、多・スクリプロジェクトで設置したランプシェードにより、明い雰囲気、ほんのりと明るく感じることができた。<br>校種間の授業公開については、2ヶ月に1回程度小学校へ出向いて児童を参観する機会を設けている。また、中学校の授業研究会への参加を中学校教員に案内している。9月には学園内の保幼中の職員を対象に、特別支援教育をテーマに合同研修会を実施した。<br>今年度は、「唐崎小中学校9年間を通して育む情報活用能力」を小中学校の担当者で策定し、それを実施した。幼金的な学習の時間の取り組みを行った。2年生の職場体験学習実施後を小中学校の担当者が参観し、小中合同授業研究会を開催し、指導助言には京都大学大学院木村裕教授を招き、指導助言をいただいた。このように、育てたい資質・能力を踏まえた小中連携を引き続き進めていきたいと考える。 | 2 | ・ボランティア活動に参加している中、小学生や園児の面倒見みがいる生徒がたくさんいて素晴らしいと思い、今後も子どもの校種間交流の場が増えるような活動ができたら良いかなと思う。<br>・恵まれた立地条件を有効に活用して、さらに校種間の交流の機会が増えることを期待しています。<br>・各学年より出前授業の授業者を振られるということで、たいへん興味深いです。<br>・合同コンクールに幼稚園児を招待されたことは、園児、生徒にとっても大い環境に思に思した。<br>・様々な取り組みをされ、今後も根拠小中の潤ちから接続を期待します。<br>・学園内の幼小中で、子どもたちの交流する活動を設けられているとのことであり、評価されるものと思われる。幼小中は子どもたちが通ってきた過程であり、これから迎える過程になるため、連携や交流がより図られるよう期待します。<br>・子どもたちの育ち生点ではなく後でつなぐためにも、保幼小の連携をこれからも積極的に進めていただきたいです。<br>・保幼小とのそれぞれの校種間交流に関してもうひと工夫をして取り組みができるのではないか。 |
| | 17 | 校種間の授業公開や合同研修会 | 3 | | | |
| | 18 | 保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究 | 3 | | | |

校種の接続の充実

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 生徒指導体制の充実 | 19 | いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導　※ | 3 | 連携図の生徒指導部会と教育相談部会で、情報共有と様々な問題行動等への対応や未然防止について検討することができた。また、生徒指導部会と教育相談部会で協議した内容を職員に周知し、共通理解を図りきれないことがあったため、生徒指導対応や生徒支援について、スピーディーに取り組めていきたい。<br>いじめについては、毎月「お悩みアンケート」と学期に1度「いじめのアンケート」を行い、生徒が思っていることを、こまめに把握する機会を設けている。また、年間2回の保護者懇談（各担任実施）をとおして、生徒の心の状態を把握することや相談するための きっかけを増やすことができた。<br>不登校の問題については、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるように「校内ウィングと呼ばれる別室を設置し、金職員で運営している。また、大津市子ども・子育て安心隣等の各関係機関との情報共有を密にするように努め、関立する各関係いろいろにすることや、多角的に生徒を支援していけるようこの点がけている。<br>加えて、運営教育ていのもの教育、「ちがいに学び合う授業」の推進によって、発達支援的な生徒指導を進めていこにも力たいと考える。 | 3 | ・以前より生徒指導面ではしっかりしているので素評価に関が声増らし感じます。<br>・いじめについては、未然防止することが一番重要だと思います。不登校の問題もとても気になります。孤立する生徒がいなくなるよう多角的な支援の継続をお願いします。<br>・いじめについては早期解決するよう努力されることが見える。<br>・なぜ不登校がこんなに増えたのか、保幼小の連携とかかわって成長の過程で家庭、保護者とのかかわりを地域として考えてできることを模索したいと思う。<br>・「広報おおつ号」のように「校内ウィング」はそれぞれの安心でき居場所として重要である。<br>・定期的に生徒指導と教育相談部の部会をもって、学校として全体で生徒指導への体制が整えられていることは評価する。組織全体で、情報の共有と共通理解があってこそ、組織的に指導や対応がなされるものであって、好ましく思われる。また、生徒一のアンケートを定期的に実施して、現行の把握に努めていることも、組織的な指導を展開していくうえで重要であり、評価する。<br>・生徒指導上の諸課題に関して適切に対応されている。不登校の生徒に対して、その人間関係を注視しながら、配慮を行い、その生徒がどうしていきたいかを見守っていく必要がある。 | 3 |
| | 20 | 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進　※ | 3 | | | |
| | 21 | 家庭・地域・関係機関との連携による指導 | 3 | | | |
| ② 特別支援教育の充実 | 22 | 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 | 3 | 夏の研修会では心の授業について研修や、発達障害の現点から多様性理解についての研修を行い、学校全体で取り組めることを再確認することができた。個別の指導計画については、現り思のある生徒の授業での様子や生活面での行動・状態を整理することで、支援の方法やさて考え、保護者と確認することができた。ただ、個別の指導計画と共・活用について は、学校全体で行うべきではいて おらず、来年度は共有し、担当だけで収集相談や学年担当と連携がされるようにした い。また、教育支援センターの派遣相談や子ども発達相談センターアドバイスをいただき、対象どりとる生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の在り方について、関係特別支援教育員会で情報を共有し、方向性を検討した。校内の運営指導学級も4年目となり、特性に合わせて活用する生徒が増え、通級が登校意欲を高める要因となっている生徒もいる。 | 3 | ・個別の教育支援計画、指導計画の作成活用は、とても重要だと思います。今後も関係各所との連携を密にしていただき、特別支援教育体制が充実することを期待しています。<br>・参観の時、学校に来るのが楽しそうに見受けられた。<br>・今後もいろんな活動を通して、楽しみながら特異なことを見つけられるような指導を期待しています。<br>・特別支援はどうやってこに対応していかねばならず、通級指導を活用する生徒が増えたことはよいことだと思います。<br>・困り感のある、ということが言葉で言えていない生徒も通級指導を利用してれれば……<br>・中学校卒業の方向性を見据えた関係機関との連携がさらに大切と考える。<br>・特別支援教育で個別の指導計画が作成され、支援の方法や内容が保護者にも説明、共有されていることは、たいへん評価されるものと思われる。個の発達や成長を学校全体で支えていこうという姿勢が受け取られ、好ましく思われる。<br>・特別な配慮が必要な生徒に対して、適切に対応がとられている。思春期の生徒の気持ちにさらに寄り添いながら、さらに充実を図ってもらいたい。 | 3 |
| | 23 | 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立 | 3 | | | |
| | 24 | 関係機関と連携した相談体制の充実 | 3 | | | |

※　我々にゆだねについては、学校長本アの評価と整合させてください。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 学校満足度 | 25 | 児童生徒の学校満足度 | 3 | 3 |
| ※ | 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入） | 2.55 | | | |
| ※ | 保護者アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入） | 2.24 | | | |